

令和7年度

奈良市立看護専門学校

一般・社会人入学試験（専願B）問題

現代の国語・言語文化

試験時間 50 分（問題 1～17）

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで問題を開いてはいけません。
2. 机の上には、受験票、筆記用具以外のものを出してはいけません。
3. 係員の指示に従って、**下欄及び解答用紙に受験番号と氏名を記入**し、解答用紙の受験番号欄をマークしてください。
4. 解答方法：選択肢（1～5）から**正解を一つ選び**、解答用紙の解答欄の該当番号をマークしてください。2つ以上マークした場合には誤りとなります。
5. マークは解答用紙の「マークの方法」の「良い例」のように濃く、はっきりと塗りつぶしてください。「悪い例」では採点されない場合があります。
6. 試験中に問題の印刷不鮮明等に気付いた場合は、手を挙げて係員に知らせてください。なお、問題の内容に関する質問にはお答えできません。
7. 問題の余白はメモ等に使用して構いません。
8. この問題冊子は回収します。持ち帰らないでください。

受験番号

--	--	--

氏名

--

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

わが国のような湿気の多い土地では、空が本当によく晴れ切^{あま}って天の河原の砂も拾えそうな夜は年中でわずかしかない。まず十二月から正月へかけて二ヶ月くらいのものであろう。天文学者はこの機を利用して観測にふけり、詩人宗教家はこの間に星月夜^{うた}の美観を唱い造化の偉大をたたえる事が出来る。それで時節柄天体の運動に関する(ア) 最新の大発見をちょっとここで読者に御紹介しておきたい。(A)

小学校や中学校で教える天文学では、大小無数の恒星もその一つなる太陽も動かぬものとなっている。われらが住む地球はその姉妹なる諸遊星とこまのように回りながら太陽の周囲を不断周遊しているのであると講釈する。なるほどこれで大体は正しい。春夏秋冬昼夜の別はもちろんの事、複雑な諸星の行動も遺憾なく理解する事が出来る。(イ) 太陽も満天の恒星も全く動かぬというのは、実は、嘘ではないまでも人を見て法を説く小乗の方便である。動かぬどころか大いに動いている。(B)

そんなに動いているものを動かぬなどと教えるのは不埒^{ふらち}千万だとおとがめになる方があれば、それには(ウ) 次のような弁解をしなければならぬ。まず大きな汽船に乗って遠洋へ出たとする。四方見回す限り陸地の影も見えぬ、ただ水平線上に幾筋かの横雲が静かに横たわっていると想像する。この時船中の食堂で卓を囲んで皿の肉をつついている人には船が進んでいようがいまいが何の痛痒^{つうよう}も感ぜぬ、船が動けば皿の肉もそれを食っている自分自身もやはり一緒に動いて行くからだ。その時「オイ君の食ってるビフテキは一時間三十海里で走っているぜ」と教えるのは少々馬鹿げているではないか。(エ) 小学校や中学校で太陽系を説くのは丁度船中で船内の事のみを教えているようなものである。

それからまた船が一直線に進んでいる時遙かな水平線上の雲などを見ていれば雲も動かず船も動かず、いつまでも同じところで波を切っているような気がする。これは雲が遠いからである。それと同じようにすべての恒星は非常に遠いので太陽系がこれに対して移動している事が短い年月の間には認められぬのである。しかし事実はどこまでも事実であるから皿のビフテキはやはり飛んでいる、食っている人はこれを追っ駆けながら平気である。ビフテキばかりか船も飛んでいる。海も陸地も地球と一緒にすさまじい速度で太陽のまわりを飛んでいる。太陽はまた地球その他の遊星を率いて天の一方リーラ星座に向って突進している。(C)

この事を初めて気付いたのは英国のハーシェルという星学者であった。一見動かぬと思われる恒星をよくよく調べてみると実は少しずつ動いている。少しずつと言うのは遠い地球から見て言う事で実は驚くべき速度で動いている、がどの星もみなリーラ星宿から外へ向いて散開しつつあるように見える。これを畢竟^{ひっきよう}するに(注1) 太陽系がこの星座に向って進んでいるため、丁度船が港に近づく時眼前の景色が目指す埠頭を中心として展開すると同じだと説き、爾来^{じらい}(注2) 誰も異議をさしはさむものがなかった。ハーシェルの調べた結果によれば太陽は半時間に一万マイルくらいの速度で飛んでいる、一日たてば四十八万マイルだけ目的地に近寄ってはいるがその行先はあまりに遠い虚空の果で、百年や二百年の短日月では一向近寄ったようにも見えぬのである。(D)

ハーシェルの発見も今は昔となった。近頃オランダ・グロニンゲンのカプティン博士等は、従来多年の観測の結果を総合^{そうごう}して精細な研究を遂げた末に、天体に散布せる諸恒星は自ずから二派の流れに分れている事を発見した、すなわち天体各部の星の運動が目指す方向を反対に延長して見るとほぼ定まった二つの星座に集注する。一群の星は前述のリーラ星座より発して四方に展開しつつあるがごとく、他の一群は北天カメロパルダリス星座の辺より馳^はせ出^{いず}るようである。(オ) 大小の

群星には二つの党派があってそれぞれの根拠地より出でて互いに入り乱れつつも目ざすところに馳せ行くがごとき有様である。しからばわれら諸遊星の組頭とも言うべき太陽はどちらの党派に属しているだろうかという疑問が起る。悲しい事には我々太陽の陪臣^(注3) 微々たる人間の目には堂々たる太陽の歩武^(注4) がどちらに向いているという事がはっきり分らぬが、ただ周囲に動いている諸星の中でリーラ派のは速く動くように見え、カメロパルダリス派のは割合にわれらと歩調の差が少なく見えるから、まずわれらは後の派に属するものと考えねばならぬ。E

ハーシェルはリーラ座より発するとき諸星の運動のみを見てこれは太陽がこの星座の方に動いているためだと解釈したが、カプタイン一派の考えでは天体には二つの大きな星の流れがあって二つの方向に交差しているというのである。この説が一般に採用されるかどうかという事はなお他日を待たねばならぬが、とにかく天体の運動に関して光明を与える一大発見と言わねばなるまい。

こういう説を聞いて星夜の空を仰いでみる。そしてあの小さな美しい星がわが地球の何百万倍も大きな火の玉で、それが何万となき群になって(カ) 無辺の宇宙の果から果に測り難い使命を帯びて急いで行くのだと考えると、一種妙な心持ちになるのである。

(寺田寅彦「宇宙の二大星流」による)

(注) 1 畢竟するに：せんじつめてみると、2 爾来：それ以来、3 陪臣：家来の家来、4 歩武：足取り

問題 1 次の文は本文の一部である。最も適当な挿入場所はどこか。文中のA~Eのうちから一つ選択せよ。

いやどんなに速い鉄砲玉でも追付かれぬくらいな速度で空間を飛んでいる。

- 1 A 2 B 3 C 4 D 5 E

問題 2 下線部(A)「最新の大発見」とあるが、ここで筆者が指すものとして最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 太陽や満点の恒星がすさまじい速度で動いていること。
- 2 小学校などで教える天文学には、一部間違いが含まれていること。
- 3 すべての恒星はリーラ星座から出発し、外へと散開していること。
- 4 天体に散布する諸恒星が自ずから二派の流れに分かれていること。
- 5 太陽はカメロパルダリス派に属するものと考えられること。

問題 3 空所(イ)に当てはまる最も適当な語句を一つ選択せよ。

- 1 もちろん
- 2 したがって
- 3 結局
- 4 しかし
- 5 だから

問題4 下線部(ウ)「次のような弁解」とあるが、ここで筆者が伝えたいこととして、最も適切なものを一つ選択せよ。

- 1 すべての恒星は非常に遠いため、短い年月の間には動いていることが分からないから。
- 2 海や陸地は地球と一緒にすさまじい速度で太陽のまわりを飛んでいるから。
- 3 太陽や恒星も船やピフテキと同様に物体であるから。
- 4 太陽も地球やその他の遊星と同様に恒星の一つであるから。
- 5 太陽は天の一方であるリーラ星座に向かって突進しているから。

問題5 下線部(エ)「小学校や中学校で太陽系を説くのは丁度船中で船内の事のみを教えているようなものである」とあるが、これはどのような意味で用いられているか。最も適切なものを一つ選択せよ。

- 1 現実味のない話をしないこと。
- 2 当事者が存在する範囲内のことのみを教えること。
- 3 当事者に関係のない話は教えないこと。
- 4 当事者を困惑させることを教えないこと。
- 5 納得してもらえよう話を脚色すること。

問題6 空所(オ)に当てはまる最も適切な語句を一つ選択せよ。

- 1 そして 2 しかし 3 つまり 4 いわゆる 5 さらに

問題7 下線部(カ)「無辺の宇宙の果から果に測り難い使命を帯びて急いで行く」とあるが、これはどのようなことか。最も適切なものを一つ選択せよ。

- 1 リーラ星座より出発した諸恒星が、すさまじい速度で四方へと展開していること。
- 2 大小の諸星が、天体に散布しながらも一つの目的地へと進んでいること。
- 3 宇宙に散らばる諸遊星が、長い時間をかけて二つの党派を目指し馳せ行くこと。
- 4 大小の美しい群星が、遠い虚空の果てで太陽を目指し進んでいること。
- 5 諸恒星が、それぞれの根拠地より出発した後、目指すところへと進んでいること。

問題8 本文の内容と合致する記述として最も適切なものを一つ選択せよ。

- 1 筆者は小学校や中学校で教える天文学を不埒千万であると考えている。
- 2 地球上のすべての物質はすさまじい速度で太陽のまわりを飛んでいる。
- 3 ハーシェルが発見に対し、異論を述べるものはカプタイン博士以外に存在しない。
- 4 筆者は太陽の動きからカプタイン派の考えに賛同している。
- 5 筆者は宇宙の果てで行われる諸恒星の運動にロマンを感じている。

第2問 次の各問いに答えよ。

問題9 下線部に示す漢字の読み方が正しいものをそれぞれ一つずつ選択せよ。

- (1) 1 歌舞伎役者が襲名披露 (ひろ) する。
2 盤石 (ばんせき) な経営体制を作り上げる。
3 貧しくとも健気 (けんき) に生きる。
4 御利益 (ごりえき) のあるお守りを身につける。
5 世界中が固唾 (かたず) をのんで見守る。
- (2) 1 作業に差し障 (つかえ) る。
2 必死の形相 (ぎょうそう) で助けを求める。
3 壁の落書きは泥棒の仕業 (しぐさ) だった。
4 栄 (さか) えある賞に選ばれる。
5 資金力を誇示 (こし) する。
- (3) 1 彼は生粋 (いきすい) の京都人だ。
2 新人候補が初陣 (しょじん) を飾る。
3 フェイクニュースを吹聴 (すいちょう) する。
4 平安時代の詩歌 (しいか) を学ぶ。
5 来年度の暫定 (ぜんてい) 予算が成立する。

問題10 下線部の漢字が正しいものをそれぞれ一つずつ選択せよ。

- (1) 1 高奮 (こうふん) 冷めやらぬ声が聞こえる。
2 被災者の救剤 (きゅうさい) に尽力する。
3 赤ちゃんの五感を刺激 (しげき) する。
4 捜査の指気 (しき) をとる。
5 現想 (げんそう) 的な絵画に目を奪われる。
- (2) 1 新しい議長に就妊 (しゅうにん) する。
2 知人の意外 (いがい) な一面を見る。
3 学年トップの成績を維自 (いじ) する。
4 会議の帽頭 (ぼうとう) にあいさつする。
5 パソコンの普乃 (ふきゅう) が進む。
- (3) 1 基本の操作 (そうさ) 方法を学ぶ。
2 多少の誤差は許要 (きょよう) する。
3 文章を簡結 (かんけつ) にまとめる。
4 派遣 (はけん) 会社と契約する。
5 パンダの愛唱 (あいしょう) を募る。
- (4) 1 資料の誤りを指適 (してき) する。
2 奇重 (きちょう) な資源を大事に使う。
3 相手の気迫に圧到 (あつとう) される。
4 人混みを軽会 (けいかい) に走り抜ける。
5 新たな価値を創造 (そうぞう) する。

問題 11 次の下線部と同じ漢字を使うものをそれぞれ一つずつ選択せよ。

- (1) 勤務時間のユウ通がきく。
- 1 引退試合に勝利してユウ終の美を飾る。
 - 2 ユウ雅な姿に思わず見とれる。
 - 3 わが家に車を買う余ユウはない。
 - 4 信用金庫からユウ資を受ける。
 - 5 他校とユウ好関係を深める。
- (2) 小説を読んで感メイを受ける。
- 1 運メイの赤い糸を感じる。
 - 2 株式のメイ柄を比較する。
 - 3 メイ惑メールが後を絶たない。
 - 4 組織のメイ称が変わる。
 - 5 日米同メイの強化を図る。
- (3) 彼女はいつも低姿セイだ。
- 1 外交セイ策に力を入れる。
 - 2 論文のセイ合性を疑問視する。
 - 3 今日の運セイを占う。
 - 4 両社が共同セイ明を発表する。
 - 5 皆が一セイに席を立つ。

問題 12 次のうち「傾向」の同意語として正しいものを一つ選択せよ。

- 1 気鋭 2 移転 3 斜陽 4 風潮 5 炎上

問題 13 次のうち「継続」の反意語として正しいものを一つ選択せよ。

- 1 気早 2 即決 3 速効 4 火急 5 中止

問題 14 次の語句の意味として正しいものをそれぞれ一つずつ選択せよ。

- (1) フィードバック
- 1 結果から原因に立ち戻ることによって行為や動作を調整すること。
 - 2 もとの地位・身分などに再び戻ること。
 - 3 顧客サービスとして、買い物の代金の一部を払い戻すこと。
 - 4 過去の場面などが頭の中によみがえること。
 - 5 電話をかけ直すこと。
- (2) 目が利く
- 1 相手の不正や過失などを深くとがめだてせず、寛大に扱うこと。
 - 2 礼儀や行儀作法がきちんとしていること。
 - 3 物事の善し悪しを、見分ける力があること。
 - 4 自分の利益になるようなことを見逃さず、また、たくみに不利益を避けること。
 - 5 目立っていて、人の注目を集めること。

(3) 虎穴に入らずんば虎子を得ず

- 1 たいへんな危険を冒すこと。
- 2 芸事などの秘伝をしるした書や、講義などに用いる種本のこと。
- 3 権勢をもつ者の力に頼っていばる小人物のこと。
- 4 なにごとも危険を冒さなければ成功を収めることはできないということ。
- 5 非常にたいせつにして手放さない金品や、とっておきのもののこと。

(4) 一触即発

- 1 予想やねらいがすべて当たること。
- 2 人間のもっているさまざまな感情のこと。
- 3 物事のようすや成り行きが急に变化して、解決や結末に向かうこと。
- 4 物事の発端となった出来事や中心人物のこと。
- 5 事態がきわめて緊迫した状態にあること。

(5) 当意即妙

- 1 困難な状況にあつて苦しみながらも不断の努力をすること。
- 2 その場に応じた適切な対応や機転をとっさに利かせること。
- 3 元気よく意気込みが盛んで、天を突かんばかりに勢いがあふれていること。
- 4 互いの思いや気持ちがぴったりと合い、一つになること。
- 5 心で思っていることを、他人にわかるように明らかにすること。

問題 15 次の意味を表す言葉として正しいものをそれぞれ一つずつ選択せよ。

(1) ある主張に対してそれを否定する内容の主張のこと。

- 1 アナーキズム
- 2 アンチテーゼ
- 3 コンフリクト
- 4 ナンセンス
- 5 ネガティブ・シンキング

(2) そわそわして落ち着かなくなる。また、逃げ腰になること。

- 1 足止めを食う
- 2 二の足を踏む
- 3 取るに足りない
- 4 片足を突っ込む
- 5 浮き足立つ

(3) 他人の意見や批評をまったく気にとめず聞き流すこと。

- 1 一心不乱
- 2 孤立無援
- 3 馬耳東風
- 4 不言実行
- 5 疑心暗鬼

問題 16 下線部の言葉の使い方が正しいものを一つ選択せよ。

- 1 ライバルに一泡吹かせようと練習に励む。
- 2 せちがない世の中に、ため息をつく。
- 3 この人数では少なすぎるて試合ができない。
- 4 心血を傾けた作品がついに出来上がった。
- 5 普段は妻の尻に引かれて頭が上がらない。

問題 17 次の記述に当てはまる人物として正しいものを一つ選択せよ。

1878年に東京で生まれた。札幌農学校（現在の北海道大学）を卒業し、欧州留学後、母校の教授となる。1910年に「白樺」同人に参加し、文学活動に入る。代表作に『カインの末裔』『生まれ出づる悩み』、『或る女』、評論『惜しみなく愛は奪ふ』などがある。

- | | | |
|---------|--------|---------|
| 1 与謝野晶子 | 2 菊池寛 | 3 芥川龍之介 |
| 4 有島武郎 | 5 宮沢賢治 | |

以 上